

特集 養老三滝

養老町には、「養老の滝」に加え「秣（まぐさ）の滝」、「直江の滝」といわれる滝があり、この三つの滝を「養老三滝」と称しています。

その姿形から養老の滝を雄滝、秣（まぐさ）の滝を雌滝、直江の滝を子滝とも言われています。

「養老の滝」は大変有名ですが、あとの2つの滝についてはあまり知られていないのが現状です。そこで、今回は養老三滝を紹介します。



▲直江の滝



▲秣（まぐさ）の滝



▲養老の滝

養老の滝

滝の水がお酒に変わった孝子伝説の舞台として、その名を全国に知られ、言わずと知れた養老町のシンボル。

落差約30メートル、幅約4メートルあり、「日本の滝百選」（1990年）にも選ばれた名瀑です。

養老駅から徒歩で50分程度の場所であり、春の桜、秋の紅葉など観光シーズンには多くの人が訪れます。その美しい景観は古くから多くの人を魅了し、江戸時代には葛飾北斎らが浮世絵を描くほどです。

秣（まぐさ）の滝

養老の滝より北へ約1.1キロメートルに位置し、養老の滝からは徒歩で90分程度かかります。

奈良時代に聖武天皇が養老へ行幸された際に、この滝から水を汲み、付近の谷から秣（馬の草）を採取したことが、名前の由来となっています。

落差約30メートル、幅約3メートルあります。

滝までは、道なき道、いわゆる獣道を通らなければ到達できません。